

3-4					
主題	看取りケアの振り返りを充実させることで向上する看取りケア体制の研究				
副題	看取りケアチーム全体がやりがいを感じられる看取りケアを目指して				
キーワード 1	振り返り	キーワード 2	体制の改善	研究(実践)期間	28ヶ月

法人名・事業所名	社福) 練馬区社会福祉事業団 富士見台特別養護老人ホーム
発表者(職種)	竹内徹(介護職員)、渡辺太一(生活相談員)
共同研究(実践)者	櫻本淳(介護職員)、江波戸由利(看護職員)

電話	03-5241-6010	FAX	03-5241-1760
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	緑の多い閑静な住宅街に位置する、56床(ショートステイ含む)の従来型多床室の施設です。施設内には通所介護事業を併設しています。近隣は練馬区一番の高齢化地域です。施設は認知症になっても安心して暮らせる地域の核になれるよう、連携・協働しての運営に取り組んでいます。
-------	--

#### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当施設では介護保険制度前より、入所されたご利用者に最期まで施設で過ごしていただけるよう看取りケアの体制整備とケアの実践してきた。また、看取りケアを実践した後、退所されたご利用者の看取りケアについては、多職種で振り返る機会として平成29年度より「デスクンファレンス」を行っていた。看護職員が中心となり、介護職員、機能訓練指導員、管理栄養士など各職種1名ずつが参加し、意見交換や振り返りの場にはなっていたが、ご利用者と多くの時間関わりがあった現場の介護職員や看護職員は変則勤務であることから参加が少なく、現場の介護職員や看護職員からの意見交換や振り返りを行うことができず、課題の共有や改善が十分にできていなかったことが課題になっていた。

#### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

各職種からの意見や振り返りは同様に継続していく。また、今まで振り返りや意見交換の場に参加できなかった多くの介護職員や看護職員が勤務上「デスクンファレンス」に参加できなかったとしても、意見や思いを伝えることができる体制をつくっていくことで、チーム全体の看取りケア体制への課題や改善につなげることができ、課題の解決になることを期待した。

看取りケアの振り返りを多くの職員、チーム全体で行うことで、看取りケア体制がより充実することを目標として次の3点を仮説とした。

1. 看取りケアにおけるチームで目指すべき方向性が共有できるようになる。
2. 看取りケアプランをより個別化した内容にすることができるようになる。
3. ケアをする職員の個別課題に焦点を当てず、チーム全体で体制改善ができるようになることで職員の精神的不安を緩和できる。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 看取りケアの振り返りシートを各職種で記入する書式から職員一人ひとりが記入できる書式に変更した。振り返り内容としてご利用者へのケアの実践について、看取りケアプランや起こりうる症状への把握、最期の迎え方の意向について、ご家族の関わりや満足度などを評価していくようにした。評価方法は回答項目を選択する方法とし、集計票を新たに追加した。

2. 振り返りシートの対象職員を各職種から、すべての常勤職員に拡大した。個人で記入する振り返りシートのため、他の意見にとらわれることなく自分自身の行ったケアを振り返ることができるようにした。

3. デスカンファレンスの開催日を変更し、少しでも多くの介護職員や看護職員が参加できるようにした。進行はリーダー介護職員とし、現場の介護職員や看護職員からの意見や気づきをチームの改善に取り入れられるようにした。

### 《4. 取り組みの結果》

課題となっていた現場の介護職員や看護職員による振り返りについては、振り返りシートを変更し、対象職員を常勤職員に拡大することで、多くの意見を取り入れることができるようになった。また、デスカンファレンスにおいても多職種のみ行うのではなく参加する介護職員が増え、看取りケアプランに沿ったケアの実践などが振り返りシートとずれていないかなど確認することができるようになった。その意見をヒントに看取りケア体制の改善にもつながり、看取りケアプランの個別化や看取り期のご利用者の観察すべきポイントも共有することができるようになった。

### 《5. 考察、まとめ》

看取りケアの実践はチーム全体で実践することが大切であるため、振り返りや体制の改善も多職種多職員のチームとして関わっていくことが重要であるということが施設全体でも共有できた。

また、看取りケア体制の構築は、ご利用者やご家族だけではなく、職員の精神的不安も緩和することができることがわかった。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

「看取りの振り返りを有効に実施するためのガイド 反照的習熟プログラムのすすめ」

執筆 福祉と生活ケア研究チーム 終末期ケアのあり方

東京都健康長寿医療センター研究所 島田 千穂氏

### 《8. 提案と発信》

今後は看取り難民の増加が見込まれており、施設での看取りケアの充実がより求められます。ご利用者やご家族はもちろんのこと、働く職員にとっても安心して実践できる看取りケア体制が必要とされています。